

体験学習（勾玉・火熾し）実施要領

1. 勾玉づくり

古墳時代に権力の象徴としての装飾品や護符として勾玉がつくられていました。
この時代に戻って勾玉づくりを体験する。

(1) 場 所 考古博物館屋内 学習室

(2) 人 数 40人

—開始時間 11時—

学 習 時 間	人 数	担当者
11:00～11:50	10人	①勾玉づくり体験の指導は、当館の学芸員が担当しますが、その補佐を子ども育成部会（3人程度）で行う。 ②受付・案内・誘導は総務産業部会で担当する。
12:00～12:50	10人	
13:00～13:50	10人	
14:00～14:50	10人	

2. 火熾し

旧石器時代には、人類はすでに火を使って生活をしていました。

火を熾す手段は色々ありますが、今回はハズミ丸材を使い回転摩擦熱で熾します。

(1) 場 所 考古博物館屋外 体験広場

(2) 人 数 150人

—開始時間 11時—

作 成 時 間	人 数	担当及び内訳
11:00～11:50	10人	①火熾し体験の指導は、当館の学芸員が担当しますが、その補佐を子ども育成部会（4人程度）で行う。 ②受付・案内・誘導は総務産業部会で担当する。
	10人	
	10人	
	10人	
12:00～12:50	10人	③50分の中で、40人が達成できることを目標にしています。 スタートは10人が火熾しに挑戦します。火が着いた人から、交代していきます。50分ごとの4クールで時間を分けていますが、時間内で火が熾きないときは、続けて挑戦させてください。
	10人	
	10人	
	10人	
13:00～13:50	10人	④区切りとして50分ごとの時間帯で組んでいますので、40人が時間内に達成できれば、次の時間帯までは休憩にします。
	10人	
	10人	
	10人	
14:00～14:50	10人	
	10人	
	10人	
	10人	